

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自身のコンディションを把握し、病気と向き合う力、目標の実現に向けて取り組む力、
自身を大切に思うとともに、周囲の人を大切に思う心を育む学校

- 一人ひとりの「学ぶ意欲」を引き出し、「学ぶ楽しさ」を実感することで、治療に立ち向かう心を育てます。
- 病気療養中の児童生徒が、安心して安全に学ぶことで、自身の目標に向けて進もうとする意欲を育てます。
- さまざまな人とのつながりを通して、自分も他者も大切な存在であることに気づき、お互いを認め合う心を育てます。
- 家庭・病院・関係機関との連携のもと、病弱教育への理解推進を図り、支援学校のセンター的機能を果たす専門性の向上に努めます。

2 中期的目標

1 病弱教育における切れめのない支援の推進

- 入院中の学習機会を積極的にとらえ、長期欠席等による未学習部分を補い基礎学力の定着を図るとともに、新学習指導要領に即して教育課程を見直し「学ぶ楽しさ」「学ぶ意欲」につなげる。
新学習指導要領に関する研修として、病院所在地の教育委員会で実施される研修会等で情報収集し、準ずる教育としての体制を整える。
- 転入時より地域の学校と連携を進め、退院後の円滑な復学に向けた体制づくりを進めるとともに、児童生徒一人ひとりのニーズに応じたキャリア教育・進路指導を行うことができるよう校内体制の充実を図る。
- 病院・関係機関との連携を密にし、地域校を含めたケース会議の実施等、機関連携をコーディネートする役割を果たす。そのためのノウハウを教員全員が身につけられるよう教員間の情報共有を密にし、チーム支援を推進する。

2 病気のある児童生徒への支援の充実を図るための専門性の向上と支援の継承

- 病弱支援学校では病院の診療科によって児童生徒の状況が大きく変わるため、病種に合わせた支援が必要となる。また、地域の学校においても同じ病気のある児童生徒や、予後の支援の必要な児童生徒が在籍していることがある。自校の専門性向上に努めるとともに、センター的機能の一つとして、病院と連携した公開セミナーを毎年企画実施し、地域の学校の教育力の向上に寄与していく。また、研究冊子にまとめることで、支援の継承を進める。支援の継承の一環として、分掌会議の30%にテレビ会議システムを取り入れ、部署間連携を推進する。
- 筋ジストロフィーのある児童生徒への支援においては、医療の進歩により地域の学校に在籍しているケースが増加している。本校で行っている支援内容及び支援のノウハウを地域の学校に周知するシステムを構築する。
- 病弱支援学校は全国的にも学校数が少なく、専門性向上のためには他機関・他地域との共同研究が不可欠である。国立特別支援教育総合研究所への研究協力、他府県の病弱支援学校との共同研究、大阪府の病弱教育の推進等、自校の専門性向上を図るとともに病弱教育全体の発展に寄与する。さらに、病弱教育への理解推進に努める。

3 安心・安全の学校づくり

- 学校行事は児童生徒の成長に大きな意味を持つものであるが、実施に当たっては児童生徒の病状に合わせた行事内容であるかどうかを主治医・保護者と丁寧に確認する必要がある。年度当初だけでなく、行事前の見直しを行うことで安全・安心な行事の実施につなげる。
- 病弱教育における自立活動の在り方を全部署で検討し、児童生徒の実態に合わせた活動内容を作成し実践する。
- 児童生徒や保護者にとって、より役に立つ「個別的教育支援計画」及び「個別の指導計画」となるよう全部署で検討を行い、在籍中及び復学後の支援に役立てる。
- 児童生徒理解及び人権の擁護、個人情報の保護、災害時の対応等、児童生徒が安心して安全に学校生活を送ることができるよう、校内体制を整備するとともに、教職員研修等を活用して教職員の資質向上を図る。
*学籍に関する書類の扱いについて、統合ネットワークを活用した事務処理を可能にするためにインターネット環境の向上に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>※本校は児童生徒、保護者、教職員、医療関係者を対象に実施【学習指導等】（ ）内は前年度比</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校は楽しい」に対する肯定的評価は、児童生徒 92% (△9P)、保護者 96% (△5P) と高い評価を得ているが、授業の内容に対する肯定的評価は、保護者 100% (△7P) に対し、主役である児童生徒は 90% (△2P) に留まっている。学力向上にとって授業力はその中心となるものであり、今後さらに研鑽を積み、授業内容に対する児童生徒の評価を高めていきたい。そのため、児童生徒同士が交流する機会を増やしていきたい。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の結果において、いじめ対応に対する無回答が 7% (▼19P) と大幅に下がった。これは、「気軽に相談できる先生がいる」の肯定率 85% (▼4P)、「心や体のことをわかってきている」の肯定率 98% (△9P) から分かるように、教員に対する基本的な信頼感がある結果であると考えられる。引き続き入院中の児童生徒にとって、安心できる場所としての学校づくりを進めていきたい。 <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「保護者の悩みや相談への対応」は肯定率 92% (△6P) となり、保護者に寄り添った支援がより一層進んでいるものと考えられる。これからも、保護者の思いに寄り添っていきたい。 昨年 64% と特に低かった「病棟との定期連絡会」への肯定率は、78% と大きく改善した。これは、コロナウィルスへの対応で病院との連携がより重要になった結果であると考えられる。 	<p>第1回 (6/23)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教員の働き方改革について <ul style="list-style-type: none"> ・本校は時間外勤務が少ないと聞くが、中期的目標において、教員の働き方改革についての項目を入れた方がよいのではないか。 ○コロナウィルスへの対応について <ul style="list-style-type: none"> ・検討している WEB 交流会や WEB 社会見学の取り組みは良い。ぜひ実現してほしい。 ○校舎の老朽化について <ul style="list-style-type: none"> ・多目的ホールの雨漏りがひどい。財務課に働きかけているというが、最優先で要求してほしい。 <p>第2回 (11/10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナウィルスへの対応について <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業を進める契機になったことは、ピンチをチャンスに変える良い取り組みだと思う。 ・子どもたちは体育大会や文化祭などの行事を楽しみにしている。この状況の中でも可能な形で行事を実施してほしい。 ・天王寺動物園と結んだ遠隔授業はとても有意義な取り組みだと思う。今後も継続してほしい。 <p>第3回 (2/16)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○R2 学校経営計画評価案と R3 学校経営計画案について <ul style="list-style-type: none"> ・R2 評価案は若干の修正を加えて、承認する。 ・R3 経営計画案については、今年度のコロナ対策の経験を盛り込んだ計画になっている。ぜひこの形で計画を進めてほしい。

府立刀根山支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 切れ目のない支援の推進	<p>(1) 基礎学力の定着を図り、新学習指導要領に即して教育課程を見直し「学ぶ楽しさ」「学ぶ意欲」につなげる。</p> <p>ア 教科を中心とした授業力の向上</p> <p>イ ICTを活用した交流学習の推進</p> <p>(3) 病院・関係機関との連携、地域校・関係機関等との連携を推進する。</p> <p>ア 病院と連携した行事の実施</p>	<p>(1)</p> <p>ア・準ずる教育を行う支援学校として、教科教育の充実を図ることは非常に重要な課題である。部署横断的に教科会を実施し、少人数グループで各教科の指導案を作成する。成果を実践報告集にまとめ、教員全体の授業力向上を図る。</p> <p>イ・入院中の児童生徒は活動を制限されることが多いため、他の児童生徒との交流や社会性の獲得が難しい。ICT 機器を活用して WEB 交流会を実施し、他者との交流を楽しむとともに、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>・外部講師を活用してプログラミング学習を行う。また、全病連ロボットプログラミング大会にも参加する。</p> <p>・視線入力装置を活用した授業について、ノウハウを発表する機会を持つ。</p> <p>(3)</p> <p>ア・本校教育部において、「ゆめ水族館」を病院と連携して実施する。また、学校で作成した教材等を病院で活用できるよう連携を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・研究教科会の実施（年4回以上）</p> <p>・学校教育自己診断における「授業はわかりやすく楽しい」に対する児童生徒の肯定率 90%（H29：91%・H30：82%・R1：88%）</p> <p>・実践報告集の作成（3月）</p> <p>イ・WEB 交流会・WEB 社会見学の実施（各1回）</p> <p>・全病連ロボットプログラミング大会に参加（1回）</p> <p>・指導教諭による公開研修会の実施（2回以上）</p> <p>(3)</p> <p>ア・実施後の感想、評価（参加者・病院関係者）</p> <p>・学校教育自己診断における病院連携に対する病院関係者の肯定率 80%（H29：80%・H30：87%・R1：79%）</p>	<p>(1)</p> <p>ア・研究教科会はコロナウィルスの影響により、全員が集まったの会議は1回しか開催できなかった。（一）</p> <p>・「授業はわかりやすく楽しい」の肯定的評価は、90%で目標を達成することができた。昨年度より2%上昇した。（○）</p> <p>・実践報告集は3月に発行した。（○）</p> <p>イ・WEB 交流会は1回、WEB 社会見学会は2回実施した。3回とも児童生徒が質問を考えるなど積極的に参加した。（◎）</p> <p>・ロボットプログラミング大会は地区大会で優勝、全国大会でベスト8の成績だった。（◎）</p> <p>・指導教諭による公開研修会は、コロナウィルスの影響もあったが、WEBにより1回実施できた。（○）</p> <p>(3)</p> <p>ア・コロナウィルスの影響により、「ゆめ水族館」は実施できなかった。（一）</p> <p>・病院連携に対する病院関係者の肯定的評価は、81%で目標を達成することができた。昨年度より2%上昇した。（○）</p>
2 専門性の向上と支援の継承	<p>(2) 筋ジストロフィーのある児童生徒への支援システムを構築する。</p> <p>ア 地域の学校に通う児童生徒への支援の推進</p> <p>(3) 国及び他府県の特別支援学校との連携を進め、自校及び病弱教育全体の教育力向上に寄与する。</p> <p>ア 病院と連携した研修の実施</p> <p>イ 発達障がい等のある児童生徒への支援の充実</p> <p>ウ 全国等の病弱支援学校との連携</p>	<p>(2)</p> <p>ア・昨年度作成した冊子『筋ジスの理解と教育』を活用して、地域の学校に通う児童生徒への支援を広げていく。そのために、市町村教育委員会と連携し、要望に応じてリーディングスタッフを派遣する。</p> <p>・平成24年作成の「刀根山スポーツルール集」を、生徒の状況の変化に合わせて、改訂版を作成する。併せてリハビリ・パラスポーツでの選手の活躍についても学習する。地域支援に活かす。作成したルール集は、関係校・関係機関等に配布し、地域連携の推進を図る。</p> <p>(3)</p> <p>ア・各部署において、関係病院と連携した学校主催セミナーを実施し、府全体の支援教育力の向上を図る。特に、府においても大きな課題となっている依存も取り上げる。</p> <p>イ・国立特別支援教育研究所主催研修で「わになるシート」の活用を発表。自校において、自立活動とつなげる取組みを推進する。</p> <p>ウ・先進的な取組みを行っている学校を訪問し、次年度の自校の取組みに活かす。また、次年度の近畿地区病弱教育ブロック推進委員会会長校及び大阪病弱教育研究会幹事校として、研修会実施の準備を行う。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断における「地域連携」に対する教職員の肯定率 70%（H29：86%・H30：67%・R1：57%）</p> <p>・リーディングスタッフ派遣回数 15回</p> <p>・「刀根山スポーツルール集」改訂版の作成・配付（9月）</p> <p>(3)</p> <p>ア・4部署6セミナーを実施。総参加者数 400人（R1：390人）</p> <p>・学校教育自己診断における病院連携に対する病院の肯定率 80%（H29：80%・H30：87%・R1：79%）</p> <p>イ・全国大会実践発表（1名）。発表に対する参加者からの評価</p> <p>ウ・先進校訪問（2校）。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・「地域連携」に対する教員の肯定的評価は、65%で昨年より8%上昇したが、目標を達成することはできなかった。（△）</p> <p>・リーディングスタッフの派遣は、コロナウィルスの影響で夏頃まで他校を訪問できない状況にあったが、最終的に9回派遣できた。（○）</p> <p>・「スポーツルール集」改訂版は3月にカラー刷りで発行した。（○）</p> <p>(3)</p> <p>ア・当初4部署で開催を計画したセミナーはコロナウィルスの影響により1部署でしか実施できなかったが、WEBを活用して実施することにより1部署ではあるが参加者は300名を超えた。（○）</p> <p>・病院連携に対する病院の肯定的評価は、81%で昨年度より2%上昇し、目標を達成することができた。（○）</p> <p>イ・全国大会はコロナウィルスの影響により、開催されなかった。（一）</p> <p>ウ・コロナウィルスへの対応を考慮して、先進校訪問は行わなかった。（一）</p>
3 安心・安全の学校づくり	<p>(3) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の検討を行い、在籍中及び復学後の支援に役立てる。</p> <p>ア 「個別の教育支援計画」の見直し</p> <p>(4) 児童生徒理解及び人権の擁護、個人情報保護、災害時の対応等、児童生徒が安心できる、校内体制を整備する。</p> <p>ア 人権教育の推進</p> <p>イ 会議のスリム化と情報の円滑な共有</p> <p>ウ 個人情報の保護及び災害時の対応の強化</p>	<p>(3)</p> <p>ア・部署によって必要な支援が異なるため、部署ごとに「個別の教育支援計画」の様式も異なっている。地域支援部を中心に、学校全体として必要な内容を検討し、様式の整理・改訂を行うとともに、キャリアスポーツの目標を取り入れ、「個別の教育支援計画」に対する教員の意識の共有化を図る。</p> <p>(4)</p> <p>ア・教員の人権感覚を磨くために、様々な人権教育について知ることが重要である。人権教育に関するセミナー等を積極的に受講し、生徒指導部を通して校内に伝達する。</p> <p>・いじめの未然防止に取り組むとともに、相談しやすい雰囲気醸成する。また、いじめに関するアンケートの記載に注意を払い、児童生徒からの訴えがあった場合は、深刻化することのないよう、早期解決に向けて迅速に取り組む。このことを児童生徒・保護者に伝えていく。</p> <p>イ・テレビ会議システムを活用して全校への連絡会を実施することで、運営委員会等会議のスリム化により、時間外勤務時間の減少を図るとともに、情報共有の円滑化を図る。</p> <p>ウ・年度当初に個人情報の取り扱いについて、全教職員で確認を行い、ダブルチェック及び記録簿への記載等について周知徹底を図る。</p> <p>・保健安全生徒指導部を中心に、訪問先病院における災害時の対応を検討する。特に、訪問教育で派遣教員の多い病院については、分教室に近い対策を考える。</p>	<p>(3)</p> <p>ア・キャリアスポーツの目標を入れた「個別の教育支援計画」の様式の改訂（8月）</p> <p>・学校教育自己診断の「個別の教育支援計画」に関する教職員の肯定率 95%（H29：75%・H30：98%・R1：91%）</p> <p>(4)</p> <p>ア・学校教育自己診断における「人権教育」に関する教職員の肯定率 80%（H29：88%・H30：75%・R1：70%）</p> <p>・いじめ防止委員会の開催（各学期1回）</p> <p>イ・WEB 連絡会（毎月1回）</p> <p>・wi-fi等WEB環境整備</p> <p>ウ・記録簿の不定期チェック（各学期1回）</p> <p>・派遣教員の多い訪問先病院への備蓄配備</p>	<p>(3)</p> <p>ア・キャリアパスポートの目標を入れた「個別の教育支援計画」の様式を8月までに各分教室ごとに改訂した。（○）</p> <p>・「個別の教育支援計画」に関する教員の肯定的評価は、98%で昨年度より7%上昇し、一昨年の水準に戻った。（○）</p> <p>(4)</p> <p>ア・「人権教育」に関する教員の肯定的評価は、83%で昨年度より13%上昇した。（○）</p> <p>・いじめ防止委員会は各学期1回以上開催した。（○）</p> <p>イ・WEB 連絡会は、毎月1回開催した。（○）</p> <p>・WEB環境は、コロナウィルスへの対応により、その整備が進んだ。（○）</p> <p>ウ・記録簿の確認は学期毎に1回実施した。（○）</p> <p>・派遣教員の多い訪問先病院と災害備蓄用品の配置について協議を行い、病院の了承を得た。（○）</p>